

株式会社 桜の宮

茨城県笠間市

☎0296-77-1155

URL <http://www.sakuranomiyagc.jp/>

既存のゴルフ場にとらわれない斬新なサービスを展開

桜の宮ゴルフ倶楽部は40万坪の丘陵に、全27ホール3コースを持つ、その名の通り桜の美しいゴルフ場として有名だ。「私が子どものころはこの一帯は小高い丘で、木登りなどしていたものです。ゴルフ場ができたのは1963年。当時クラブハウスのあたりは和尚塚おしょうつかという地名でした。大きな桜の木や測量の三等三角点も今もありますし、明治天皇の行幸記念碑も残っています」と語るのは、桜の宮ゴルフ倶楽部を経営する安蔵修一社長。

会員数はおよそ1,500。「ゴルフはおとな



採れたて野菜のお土産など新しいサービスを打ち出す安蔵社長。



自生のみごとな桜の木が見えるコースは南・西・東のそれぞれ9ホール。

も子どもと一緒にプレーできるスポーツです。朝から笑い声上がるようなゴルフ場でありたい」という安蔵社長のモットーの通り、競技志向ではなく、楽しくくつろいでプレーしたいゴルファーのためのゴルフ場だ。

真夏にはエントランスにミストカーテンを設置して出迎え、休日の朝は練習用グリーンにしつらえたバルコニー「桜舞台」でヴァイオリンの生演奏、レストランでは靴を脱いでくつろいでもらうために室内用の履物を用意するなど、次々ときめ細かいサービスを打ち出している。

「お客様はそれぞれの仕事でプロの方たち。お迎えするこちらもプロのサービスをしなくてはなりません。社員にはこのことを折に触れ、繰り返し話しています」。40人の社員のほか、所属プロ4人、非常勤20人からアイデアを募集する。「社員からの提案はまずはやってみなさい、と。もしダメだったらやめればいいし、そうなれば、失敗をバネに次のアイデアに挑戦してくれます」という。

安蔵社長は桜の宮ゴルフ倶楽部のほかに、水戸市内などでビジネスホテルやコンビニ店、飲食店のフランチャイズ賃貸を50件ほど手がけ、安定した事業を展開するためのリスクヘッジも欠かさない。競争激化によりプレー料金は下落傾向にあり、集客は天候や景気に左右される。バブル期のような顧客待ちの経営は許されない。高額の維持費もかかるというゴルフ場経営だが、同社は安蔵社長はじめ社員の柔軟なアイデアにより、新たな付加価値をつけ、更なる差別化を図っている。

株式会社 国昌エコシステム

茨城県高萩市

☎0293-23-4611

URL <http://kokusho-eco.biz-knock.jp/>

木酢液の抗菌作用を生かす商品開発に取り組む

高萩駅から車で20分ほど西に行った島名地区で、木酢液の商品化に取り組んでいるのは国昌エコシステムの黒澤渉二会長と木山美江社長。ここは、黒澤会長が社長を務める国昌リサイクルセンターの作業場でもある。経理担当重役でサラリーマン人生を締めくくった黒澤会長は、2001年に産業廃棄物処理事業を営む国昌リサイクルセンターを設立した。「環境に貢献する何かをやらなくては、という使命感」から始まったと黒澤会長はいう。扱うのは建設現場から出る木くず処理で、端材をチップにして製紙会社

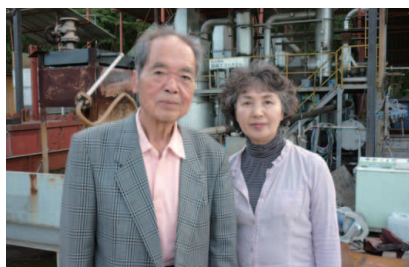
に売却する。一方でチップを原料にして木酢液の製造に取り組み、友人の谷口清峰氏の協力を得て「燻液の液性安定化方法」を発明し特許を取得。2007年には木酢液の製造販売のため国昌エコシステムを立ち上げた。

木酢液は、木材を蒸し焼きにした際に発生する揮発成分を分離（乾留）、そこから取った酢酸成分を主とする液体で、昔から炭焼きの副産物として、土壌改良や害虫駆除の農業代わりに、また殺菌や消臭目的の入浴剤に使われてきた。現在も各地で木竹酢液の製造が行われているが、原材料や乾留方法によって成分に差がある。

国昌エコシステムの純粋木酢液は「ピアモックス」として園芸用に販売され、台湾にも輸出している。木酢液にハーブをブレンドした入浴剤やペット用シャンプーなども商品化した。また、木酢液と炭の粉末を混ぜてペースト状にした建築用塗布剤「炭コート」や「木酢炭」も製造している。「入浴剤、ペット用、炭コートはネットショップやデパ

ート、大手ホームセンターなどで取り扱ってもらっています」と木山社長。2010年には、茨城大学農学部の協力を得て、地域の農家の田植え前の水田に木酢液を加えた。そこで収穫された米は食味検査でも高い値を示し、国昌エコシステムが買い取って「花貫川木酢米」として販売している。

「退職金や手持ちの資産を注ぎ込み、この事業にかけてきました。利益は環境に貢献してから考えるという方針でここまでやってきましたが、どうやら成功の道筋が見えてきました」と黒澤会長は今後を見据えている。



研究開発は黒澤会長、販売は木山社長とお互いの得意分野を生かしている。



ヒノキ材を中心に針葉樹をブレンドしたチップを原料に製造した木酢液と木酢炭の商品。

株式会社 エーヴィックコム

茨城県つくば市

☎029-871-3144

URL http://aviccom.net/

全国のネットワークを生かしてポスティング事業を切り開く

広告チラシのポスティングとメディア広告の代理業を営むエーヴィックコムは、年商1億円を超える。8人の社員でこれだけの事業ができるのは「ネットワークの力」と語るのは安倍正明社長。「ポスティングは地域ビジネスです。当社のテリトリーはつくば市を中心にした県南エリア。ですから、県内全域配布の仕事が入ったときは県央や県北エリアの同業者に協力を求めます。もちろんこちらが協力する場合もあります。同業者とのネットワークがなければ成り立ちません」

最近、大手広告代理店との取引も増え



安倍社長。社名の由来はAbe Venture International Corporationの頭文字AVIC。

た。全国展開のチェーン店などがポスティングを発注した場合は、代理店を通して茨城県全域を受注することが多いという。

エーヴィックコムが委嘱しているスタッフはおよそ300人。その8割が在宅のパートスタッフで、配布物と配布先リストを届けてポスティングしてもらう。10万部なら3日で完了する機動力がある。

ポスティングの素材は、手にとってもらい、さらにとっておきたいと思わせるものであることが望まれる。写真撮影やデザインなど専門スタッフを配置し、場合によっては自社で印刷もする。美しい形で手にとってもらえるよう折り方や投げ込み方を工夫しているが、それは企業秘密だそうだ。

「ポスティングは企業とお客様をつなぐコミュニケーションツールですが、クライアントと私どもの信頼関係もコミュニケーションで築かれます。きちんと配布することを信用していただけるように、配布可能部数やカバー率はクライアントにすべて提示します」



クライアントの要望を的確に捉え、魅力ある広告を作りあげる同社のスタッフ。

1998年の創業時は、ようやくポスティングが新聞折込チラシとは区別されてその効果に期待が集まり始めたころであり、日本ポスティング協同組合が設立されたのはその翌年のことだ。2001年に法人化して現在の社名になった。

「売上の7割がポスティングで、残りがマスメディア等の広告代理業です。もっと広告代理業も伸ばしたいのですが」と安倍社長。同社は地域情報ポータルサイトQlepつくば、J:COM、ニッポン放送の正規広告代理店でもある。

いばらき紀行



古徳沼
那珂市観光協会
☎029-298-1111

那珂市の古徳沼（古徳溜池）は、三方を低山に囲まれた自然豊かなため池です。現在も農地の水源として利用されています。この古徳沼にオオハクチョウが観測されたのは1966年のことでした。以来、越冬のためにシベリアから飛来する白鳥の数は増え続け、90年には238羽を数えました。最近は一ノ関ため池や中里など周辺のため池を含め、那珂市全体で200羽を超える白鳥が毎年飛来します。ほかにもさまざまな種類のカモが多数訪れます。古徳沼に飛来する白鳥はオオハクチョウと少し小形のコハクチョウです。オオハクチョウは首が長く、体長は約140センチ、翼を広げると2メートル以上になります。クチバシには黒色に黄色がくつきりと入っています。胴体と翼は美しい純白ですが、幼鳥は灰色です。

11月初旬から3月末までいつでも見られますが、朝8時と夕方4時の給餌の時間は特にたくさん白鳥を見ることができ、白鳥は警戒心が非常に強いとされていますが、古徳沼のように、安全であることがわかると恐れずに寄ってくるそうです。親子連れ立って移動するさまを観察するのも楽しいでしょう。今年3月11日の東日本大震災で古徳沼の護岸の一部が崩れたため、10月末を目処に補修工事を行いました。工事の影響で水入れが遅れたため、那珂市内に4〜5カ所あるため池に分散するだろうと予想されています。白鳥飛来シーズンには全国から2万人が訪れる那珂市ですが、古徳沼周辺は観光地化されおらず、バードウォッチャーや写真愛好家にとっては、それがまた魅力となっています。

クイズ

那珂市の「市の鳥」はハクチョウですが、茨城県内でハクチョウを「市の鳥」とする市がもう一つあります。どこでしょう？

（解答は次ページ）

A 水戸市

B 土浦市

C 龍ヶ崎市

